

# 農業技術 プリズム

茶業経営では、「やぶきた」偏重による摘採期間集中や茶樹の老木化による収量や品質の低下への対策が課題となっており、本県では他の優良品種への改植を推進しているところだ。

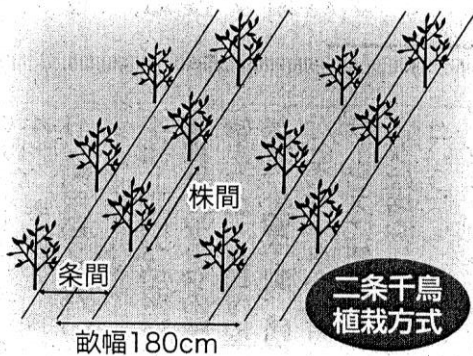
また、茶市場、茶商などの実需者は、高品質なリーフ茶や、原料茶を多量に生産するために多収性品種を求めている。

それらに対応するために、本県では、葉緑色が濃く、多収性の「さきみどり」と多収性の「ふうしゅん」を2009年に認定品種としました。

ここでは、これらの品種の樹姿などの特性に適した栽植密度を検討したので紹介します。定植方法は二条千鳥植栽方式（畝幅180cm）です。

## 茶の多収性2品種

### 二条千鳥植栽で栽植密度適切に



収量が増加します。適する栽植密度は慣行より条間を広く植える株間60cm、条間60cm（10㎡当たり定植本数1852本）です。

「ふうしゅん」では、条間を慣行の50cmから60cmに、株間を慣行の60cmから75cmに広げて定植本数を少なくすると生葉収量は減少します。栽植密度は慣行方法と同様の株間60cm、条間50cm（10㎡当たり定植本数1852本）が適します。

（茶業研究室 池下一豊）

「さきみどり」では、中間型樹姿の特徴を生かして条間を慣行の50cmから60cmに広げて定植する（株間60cm）と、年間生葉